

領域	科目名	単位	時間数	対象学年	開講時期	担当講師
専門分野 I	観察技術論演習	1	30	1 年次	5 月	東垂水 朋子
授業概要 フィジカルアセスメントについて理解し、系統的観察および適切にフィジカルイグザミネーションを実施身体測定の方法について学習する。また、観察したことを伝達できるための意義と方法について学習する。						
到達目標 1.観察およびフィジカルアセスメントについて理解できる。 2.フィジカルイグザミネーションを修得できる。 3.看護における記録・報告の意義と記録の方法について理解できる。						
使用教材 テキスト： ①系統看護学講座 基礎看護技術 I：医学書院 ②横山 美樹：著 はじめてのフィジカルアセスメント：メヂカルフレンド社 参考文献等：山内 豊明：著 フィジカルアセスメント ガイドブック：医学書院 DVD (山内豊明教授のフィジカルアセスメント シリーズ)						
評価 筆記試験 授業計画						
時間・回数	授業内容					方法
6 時間・3 回	1. 看護における観察とは 2. フィジカルアセスメントの意義 3. 観察方法（視診・触診・打診・聴診）とその意味 4. 身体各部の測定（身長・体重・胸囲・腹囲） 5. バイタルサインとは 6. 体温・脈拍・呼吸数・意識のメカニズム 7. 体温・血圧測定方法					講義 実技
4 時間・2 回	8. 呼吸器のアセスメント 9. 呼吸器系のフィジカルイグザミネーション					講義 実技
6 時間・3 回	10. 循環器のアセスメント 11. 循環器系のフィジカルイグザミネーション					講義 実技
4 時間・2 回	12. 消化機能のアセスメント 13. 消化器系のフィジカルイグザミネーション					講義
2 時間・1 回	14. 運動機能のアセスメント					講義
2 時間・1 回	15. 感覚機能のアセスメント					講義
2 時間・1 回	16. 高次脳機能のアセスメント					講義
3 時間・2 回	17. アセスメントの伝達 1)看護における報告の意義と方法 2)記録の目的と必要性、種類 3)記録物の管理と取り扱いとその重要性 4)看護記録の要素・種類・記載上の留意点					講義
1 時間・1 回	筆記試験					
備考 ○解剖生理学の知識を踏まえながら講義をすすめる ○日常生活援助技術実習、問題解決技術実習で実践できる能力を養う						